

にし いた ど い せき  
西板戸遺跡

見つかった鎌倉時代の井戸跡

平成 26 年 8 月 28 日 (木)  
秋田県埋蔵文化財センター

## 南外地域の有力な農民たちの集落跡と墓地

### －西板戸遺跡の発掘調査－

工事などで遺跡がなくなってしまう時、事前に発掘調査が行われます。西板戸遺跡は、雄物川（支流の檜岡川）の堤防工事に先立つ発掘調査です。

遺跡は、檜岡川に沿った平坦な場所にあります。遺跡の南側山手には檜岡城跡が、西側には猿倉沢館跡さるくらさわがあります。館跡とは、中世（鎌倉時代～戦国時代）の武士が住んだ場所を指します。武士の館は、堀ほりや垣根かきねなどで囲まれていたとされますが、どちらも発掘調査は行われていませんので、詳しい様子はわかっていません。

発掘調査では、掘立柱建物跡ほったてばしらたてものあと（地面に直接柱を埋めて立てた建物跡）や井戸跡、屋外おくがいで煮炊きした施設と考えられる屋外カマド、お墓などが発見されました。出土した遺物いぶつは、鎌倉時代（今から約 800 年前）、室町時代～江戸時代始め頃（約 600 ～ 400 年前）の焼物やきもの（陶器・磁器じき）や江戸時代中頃（約 270 年前）の土人形や古銭があります。鎌倉時代の陶器は、旧南外村大畑地区にあった窯で焼かれたものであることが確認されました。室町時代の焼物には中国産のお椀わんも含まれていました。土人形や古銭は、江戸時代のお墓から見つかりました。古銭には「寛永通宝かんえいつうほう」の文字が見られ、その一部は秋田市（秋田市川尻の秋田刑務所敷地内）で造られた銭であることもわかりました。

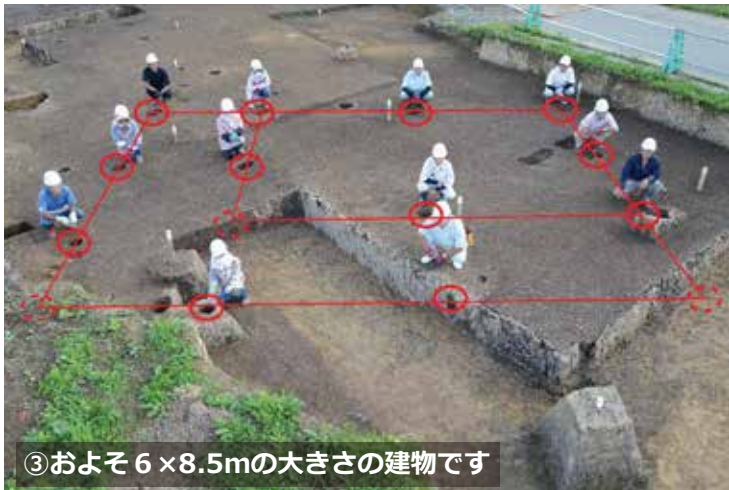
調査によって考えられた遺跡の成り立ちは次のとおりです。最初に西板戸に集落が作られたのは、鎌倉時代の初め頃です。新たに田畑を開いて自分の領地とした有力農民たちがこの地に入り、井戸を掘り、掘立柱建物を造り、屋外カマドで煮炊きをして生活していたようです。集落は室町時代、戦国時代をへて江戸時代まで続き、江戸時代の中頃には、集落の近くに墓地も作られるようになりました。

現在の西板戸集落のルーツである「板戸村」は、天正 18 年（1590）には存在した記録が残されていますが、それをさかのぼること約 400 年前の鎌倉時代にすでに集落が作られていたことが明らかとなりました。

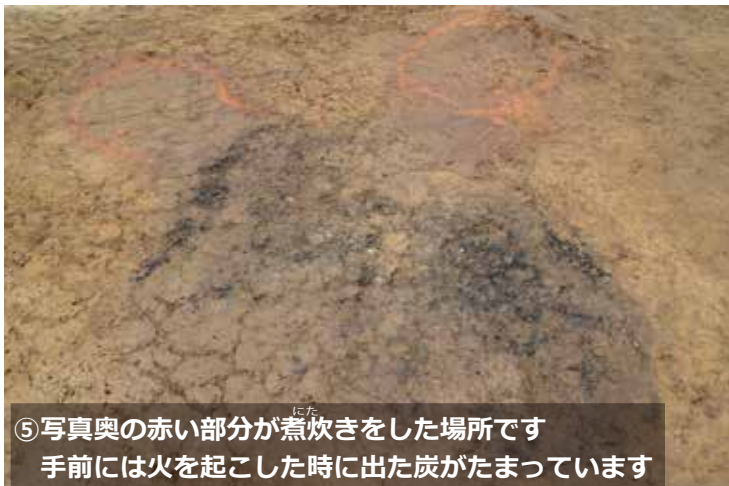
【井戸跡】



掘立柱建物跡



【屋外カマド】



【土坑 (江戸時代のお墓)】



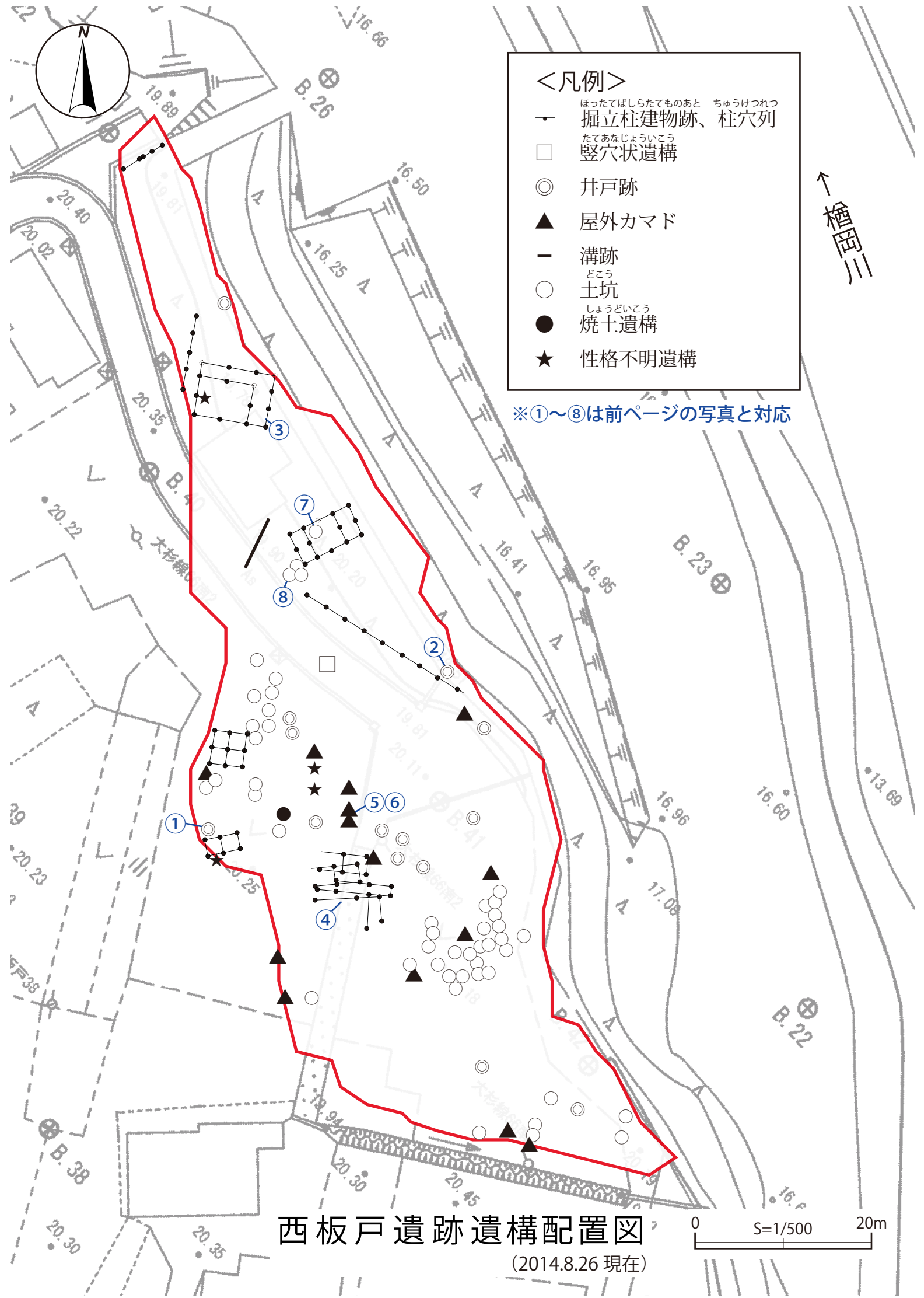


### <凡例>

- ほったてばしらたてものあと ちゅうけつれつ  
掘立柱建物跡、柱穴列
- たてあなじょういこう  
竪穴状遺構
- ◎ 井戸跡
- ▲ 屋外カマド
- 溝跡
- 土坑  
どこう
- 焼土遺構  
しょうどいこう
- ★ 性格不明遺構

※①～⑧は前ページの写真と対応

↑ 樋田三



## 西板戸遺跡遺構配置図

(2014.8.26 現在)

0 S=1/500 20m